



Sun A. Kaken

**第109期(平成30年3月期)
決算説明会**

株式会社 サンエー化研

2018年6月5日

目次

1. 第109期(平成30年3月期)決算概要

- 連結貸借対照表(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

2. 第109期(平成30年3月期)営業の概況

- 当期の業績
- 各セグメントの内容及び概況(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

3. 第110期(平成31年3月期)業績予想と今後の施策

- 翌期業績予想
- セグメント別の業績予想(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 利益率の推移と今後の施策(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

4. 参考情報

- 関係会社紹介
- 商品紹介
- 基本情報

目 次

1. 第109期(平成30年3月期)決算概要

- 連結貸借対照表(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

第109期決算概要：連結貸借対照表（資産の部）

（単位：百万円）

科 目	H28年3月期末 （第107期末）	H29年3月期末 （第108期末）	H30年3月期末 （第109期末）	対前期 増減額	対前期 増減率
流動資産	19,228	19,800	20,736	935	4.7%
現金預金	5,601	4,387	5,619	1,231	28.1%
売上債権	10,273	11,738	11,575	▲162	▲1.4%
棚卸資産	3,101	3,179	3,231	52	1.6%
その他	251	495	309	▲186	▲37.6%
固定資産	12,611	15,130	15,133	3	0.0%
有形固定資産	7,059	8,688	8,486	▲202	▲2.3%
無形固定資産	17	12	43	30	241.9%
投資その他の資産	5,534	6,428	6,603	175	2.7%
資産合計	31,839	34,930	35,870	939	2.7%

第109期決算概要：連結貸借対照表（負債・純資産の部）

（単位：百万円）

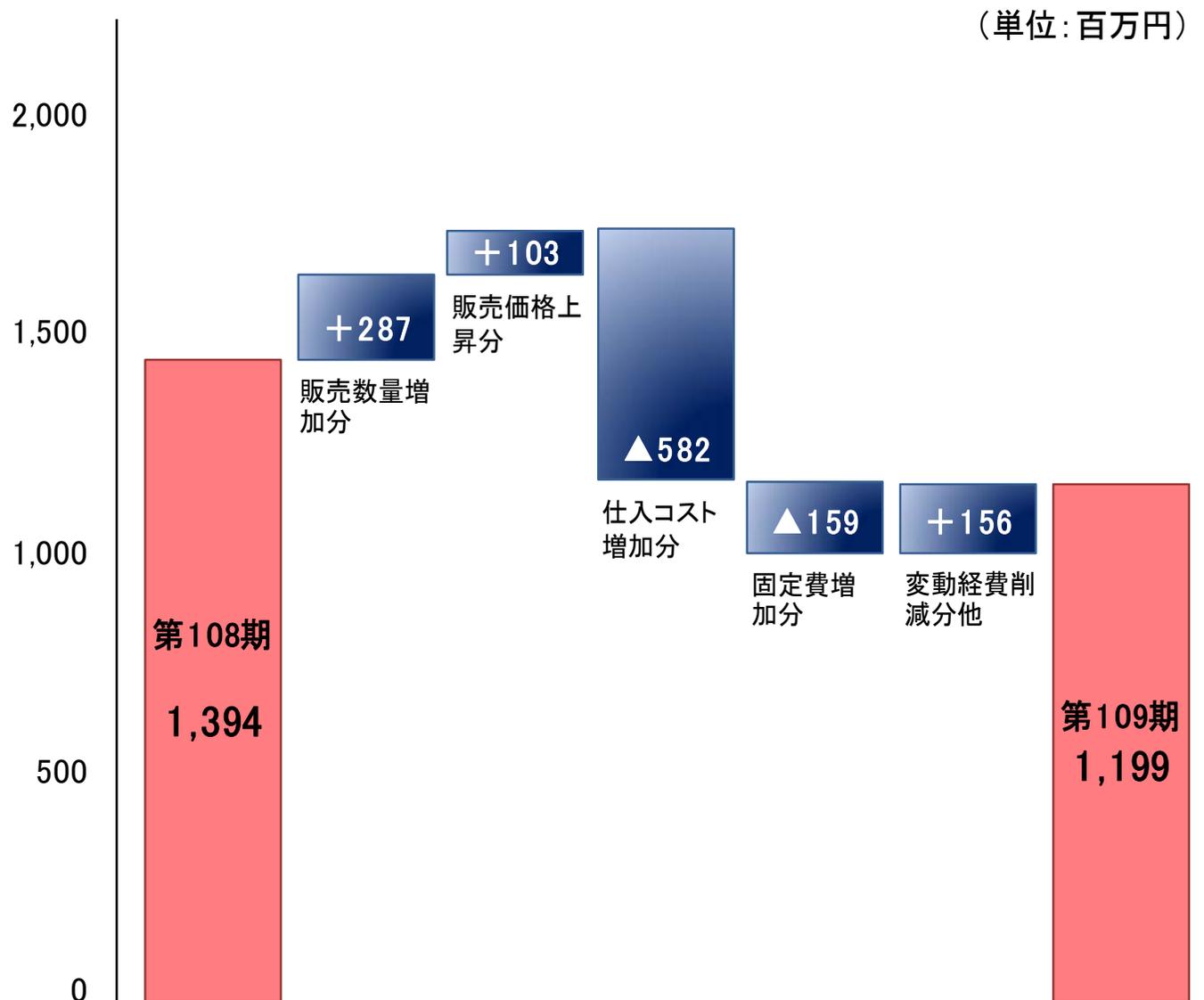
科 目	H28年3月期末 （第107期末）	H29年3月期末 （第108期末）	H30年3月期末 （第109期末）	対前期 増減額	対前期 増減率
流動負債	12,882	12,465	12,724	259	2.1%
仕入債務	6,045	6,738	6,875	136	2.0%
短期借入金	3,220	3,226	3,226	—	—
その他	3,617	2,499	2,623	123	4.9%
固定負債	1,646	3,662	3,286	▲375	▲10.3%
長期借入金	233	1,909	1,305	▲604	▲31.6%
その他	1,413	1,752	1,981	228	13.1%
負債合計	14,529	16,127	16,011	▲115	▲0.7%
純資産	17,310	18,803	19,858	1,055	5.6%
負債及び純資産合計	31,839	34,930	35,870	939	2.7%

第109期決算概要：連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	H28年3月期 (第107期)	H29年3月期 (第108期)	H30年3月期 (第109期)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	29,567	31,702	32,753	1,051	3.3%
売上原価	25,481	26,998	28,455	1,457	5.4%
売上総利益	4,085	4,703	4,298	▲405	▲8.6%
販売費及び一般管理費	2,917	3,309	3,098	▲210	▲6.4%
営業利益	1,168	1,394	1,199	▲194	▲14.0%
営業外収益	227	201	262	61	30.5%
営業外費用	38	134	328	193	143.0%
経常利益	1,357	1,460	1,134	▲326	▲22.3%
特別利益	—	—	205	205	—
特別損失	29	8	—	▲8	▲100.0%
税金等調整前当期純利益	1,328	1,451	1,339	▲112	▲7.7%
税金費用他	429	459	452	▲6	▲1.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	898	992	887	▲105	▲10.6%

第109期決算概要：営業利益の要因分解



第109期は、販売面においては主として機能性材料の販売数量の増加により 2億87百万円、売上構成の変化に伴う平均销售价格の上昇により 1億3百万円、それぞれ増益となった。

費用面においては、原材料価格の上昇や仕入商品の取扱量増加による仕入コストの増加により 5億82百万円、掛川工場WEST及びR&Dセンターの償却費の増加等による固定費増加により 1億59百万円、それぞれ減益となったが、印刷・外注その他の変動経費の削減により 1億56百万円が増益となった。

その結果、第109期の営業利益は 11億99百万円となった。

目 次

2. 第109期(平成30年3月期)営業の概況

- 当期の業績
- 各セグメントの内容及び概況(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

第109期営業の概況：当期の業績

(単位：百万円)

科目／セグメント	H28年3月期 (第107期)	H29年3月期 (第108期)	H30年3月期 (第109期)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	29,567	31,702	32,753	1,051	3.3%
軽包装材料	14,071	13,854	13,114	▲739	▲5.3%
産業資材	7,458	7,194	7,269	75	1.0%
機能性材料	7,503	10,096	11,690	1,593	15.8%
その他	533	556	678	122	22.1%
営業利益	1,168	1,394	1,199	▲194	▲14.0%
軽包装材料	737	825	598	▲227	▲27.5%
産業資材	236	▲417	▲789	▲371	—
機能性材料	123	941	1,306	365	38.8%
その他	71	45	83	38	85.9%

第109期営業の概況：各セグメントの内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料セグメント

食品、医薬品、医療器具、精密機器等の包材の製造・販売



主要顧客

- 食品加工業
- 医薬品・医療器具製造業
- 精密機器製造業
- その他製造業

生産拠点

静岡工場



奈良工場



東邦樹脂工業



第109期営業の概況：各セグメントの内容及び概況（軽包装材料）

食品関連

売上高
6,249百万円



「レンジDo!」、「ポロソ」、清涼飲料用パウチなどが安定した売上を支える。

市場環境

- 同業400-500社程度
- 汎用品は競争厳しい

収益性・成長性

- 独自の食品包材で収益確保
- 国内市場は成熟、海外市場に期待

医薬品・医療器具関連

売上高
2,253百万円



徹底した品質管理で顧客の信頼は厚い。「テクニフィルム」の拡販に期待。

市場環境

- 品質要求厳しく新規参入困難
- 市場は拡大傾向

収益性・成長性

- 高防湿医薬包材の需要拡大
- 高齢化により医療分野は成長期待

洗剤・トイレタリー関連

売上高
772百万円



詰替え用パウチの普及で伸びは一服。今後は独自商品の開発・拡販に注力。

市場環境

- 詰替え用パウチはニーズが多様化し、競争激化

収益性・成長性

- ニーズの多様化により受注機会減少
- 耐内容物包材の拡販に期待

精密機器関連その他

売上高
3,839百万円



「エアロテクト」をはじめとするエア緩衝材がこの分野の代表商品。

市場環境

- 一般包材は競争厳しい
- エア関連製品は競合少ない

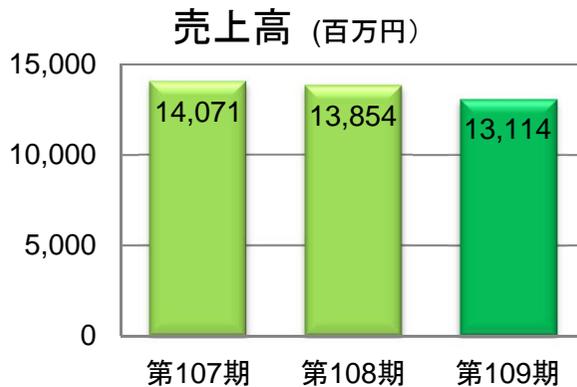
収益性・成長性

- 「エアロテクト」は主力ユーザーの生産計画変更の影響大

第109期営業の概況：各セグメントの内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料

- 売上高：13,114 百万円（前期比 5.3% 減）
- 営業利益：598 百万円（前期比 27.5% 減）



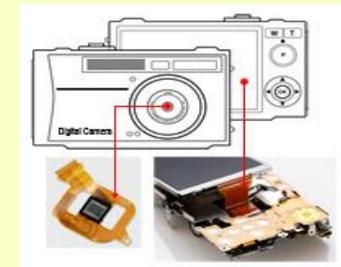
- 電子レンジ対応食品包材「レンジDo!」、清涼飲料用パウチとも堅調で、食品用包材は増収。
- 医薬・医療用包材は、高防湿PTPシート用フィルム「テクニフィルム」が伸びるも、他の商材が主要顧客の一時的取扱量減少の影響を受け、僅かに減収。
- 洗剤・トイレタリー用包材は、詰替え用パウチの形状多様化とユーザー間の競争による受注機会減少により、減収。
- エアー緩衝材「エアロテクト」は、主力ユーザーの生産計画見直しにより受注が減少し、減収。
- 売上減少に加え、原材料コストも上昇し、減益。



第109期営業の概況：各セグメントの内容及び概況（産業資材）

産業資材セグメント

粘着テープ、ラベル等基材の製造・販売



主要顧客

- テープ・ラベル製造業
- プラスチック製品製造業
- 電子部品製造業
- その他製造業

生産拠点

掛川工場WEST



袋井工場



奈良工場



東邦樹脂工業



第109期営業の概況：各セグメントの内容及び概況（産業資材）

ラミネート紙

売上高
1,751百万円



主に粘着テープ用基材（紙ベース）をテープメーカーに販売。

市場規模（推定）

- 重包装袋：約900百万m²/年
- テープ用：約420百万m²/年

収益性・成長性

- 市場は飽和状態
- クラフトテープの国内生産量は頭打ち

ラミネート布・ 布粘着テープ

売上高
2,040百万円



主に粘着テープ用基材（布・樹脂クロスベース）をテープメーカーに販売。

市場規模（推定）

- 約200百万m²/年

収益性・成長性

- 海外品流入による低価格化が進行
- 国内競合メーカー少なく、シェア安定

剥離紙

売上高
3,478百万円



テープメーカーの他、電子・化学・自動車関連等、ユーザーは多岐にわたる。

市場規模（推定）

- 約2,700百万m²/年

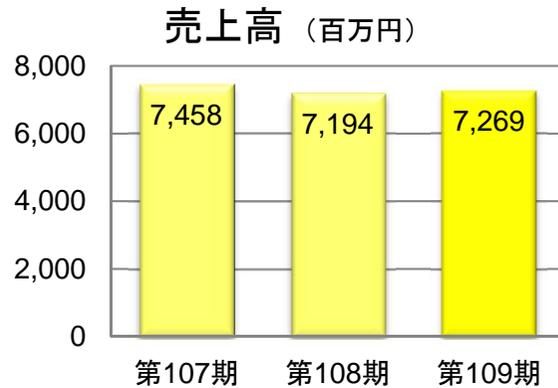
収益性・成長性

- 一般用途は収益性低下
- 電材用工程紙、炭素繊維プリプレグ用工程紙の開発・拡販に注力

第109期営業の概況：各セグメントの内容及び概況（産業資材）

産業資材

- 売上高： 7,269 百万円（前期比 1.0% 増）
- 営業利益： ▲789 百万円（前期実績 ▲417百万円）

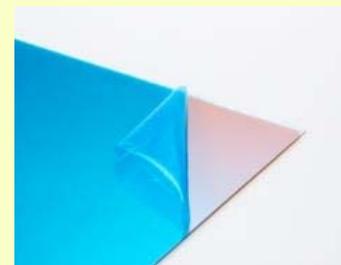


- テープ用基材については、宅配便貨物の取扱数量が増加するも、海外製の粘着テープ流入の影響もあり、国内テープメーカーからの受注が伸びず減収。
- 剥離紙については、自動車関連分野が前期並みの水準にとどまったが、医療用品関連の受注が増加。電材用工程紙も、IT関連市場の拡大に伴い、海外ユーザーからの受注が活発化。その結果、剥離紙全体で増収。
- 売上は微増にとどまる一方で、前期竣工した掛川工場WEST関連の費用負担の増加と原材料コスト上昇により、営業損失拡大。

第109期営業の概況：各セグメントの内容及び概況（機能性材料）

機能性材料セグメント

機能性プラスチックフィルム（各種表面保護フィルム等）の製造・販売



主要顧客

- FPD関連メーカー
- 電気製品メーカー
- 住設機器・建材メーカー
- その他製造業

生産拠点

掛川工場



袋井工場



奈良工場



長鼎電子材料
(蘇州)有限公司



第109期営業の概況：各セグメントの内容及び概況（機能性材料）

サニテクト

売上高
2,544百万円



最初に商品化したPO系の表面保護フィルムで、用途は多岐にわたる。

市場規模（推定）

- 約300百万m²/年
（光学用途）

収益性・成長性

- 品種により他社製2層タイプとも競合
- 光学用途はNSタイプに成長期待

PAC

売上高
1,711百万円



2層押し出しによる成膜化によって生産され、低コスト性に優れる。

市場規模（推定）

- 約900百万m²/年
（光学用途）

収益性・成長性

- 液晶テレビの導光板用は需要減少
- 光学用途以外で使用可能な強粘着タイプの開発・拡販に注力

SAT・ 粘着加工品

売上高
7,434百万円



PETフィルムを基材とし、品質要求レベルの高い用途に使用される。

市場規模（推定）

- 約450百万m²/年
（光学用途）

収益性・成長性

- 中国関連会社：長鼎電子材料（蘇州）有限公司との連携により受注拡大
- 高機能ディスプレイ対応品の需要増加

第109期営業の概況：各セグメントの内容及び概況（機能性材料）

機能性材料

- 売上高： 11,690 百万円（前期比 15.8% 増）
- 営業利益： 1,306 百万円（前期比 38.8% 増）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- 「サニテクト」については、PET基材の「NSタイプ」が低調であったが、光学用途の受注が全般的に好調で、増収。
- 「PAC」については、既存ユーザーからの受注が伸び悩む一方、新規案件の取り込みにより、前期並みの売上を確保。
- 「SAT」については、中国の合弁会社：長鼎電子材料の生産が立ち上がり、液晶テレビ向け広幅仕様の注文に本格対応。スマートフォン関連の受注も堅調で、大幅増収。
- 下期以降、原材料コストが上昇するも、第3四半期までは全般的に好調な受注が持続し、大幅増益。

目次

3. 第110期(平成31年3月期)業績予想と今後の施策

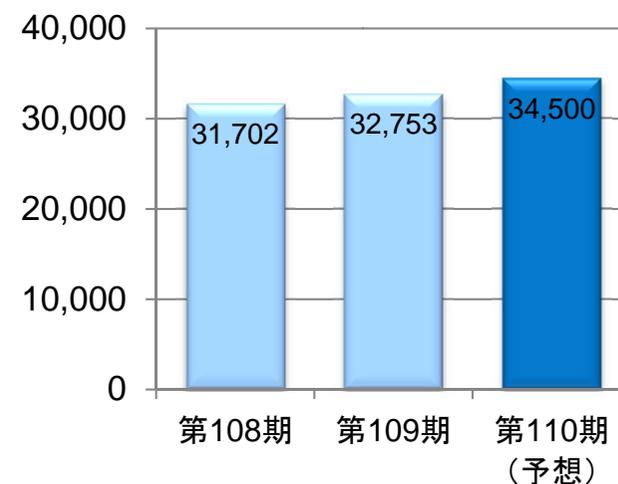
- 翌期業績予想
- セグメント別の業績予想(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 利益率の推移と今後の施策(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

第110期業績予想と今後の施策：翌期業績予想

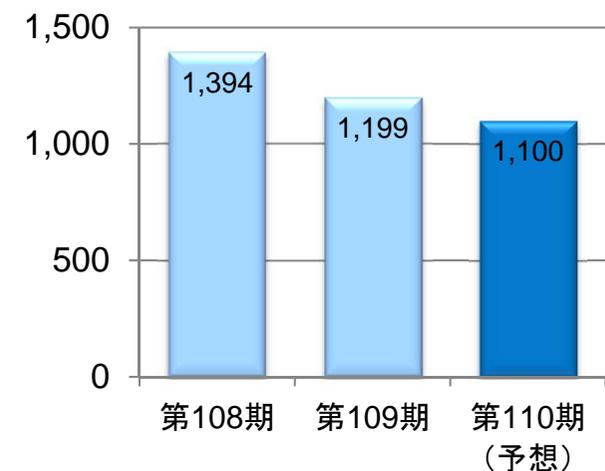
(単位：百万円)

科目／セグメント	H29年3月期 (第108期)	H30年3月期 (第109期)	H31年3月期 (第110期) (予想)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	31,702	32,753	34,500	1,746	5.3%
軽包装材料	13,854	13,114	13,200	85	0.6%
産業資材	7,194	7,269	8,100	830	11.4%
機能性材料	10,096	11,690	12,500	809	6.9%
その他	556	678	700	21	3.1%
営業利益	1,394	1,199	1,100	▲99	▲8.3%
経常利益	1,460	1,134	1,150	15	1.4%
親会社株主に帰属 する当期純利益	992	887	760	▲127	▲14.3%

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



第110期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（軽包装材料）

軽包装材料

【第110期業績予想】

- 売上高：13,200 百万円（当期比 0.6% 増）
- 営業利益：580 百万円（当期比 3.1% 減）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- 「レンジDo！」は、大手日用品メーカーのコンセプトに基づき、一般家庭で使用可能なチャック付きタイプを共同開発。新製品投入により、増収を見込む。
- 医薬・医療用包材、洗剤・トイレタリー用包材ともに増収を見込むが、エア緩衝材については、「エアロテクト」の受注回復が見込めず、減収の見込み。
- 全体の売上は微増となるも、原材料コストの上昇と価格転嫁の遅延により、減益を見込む。

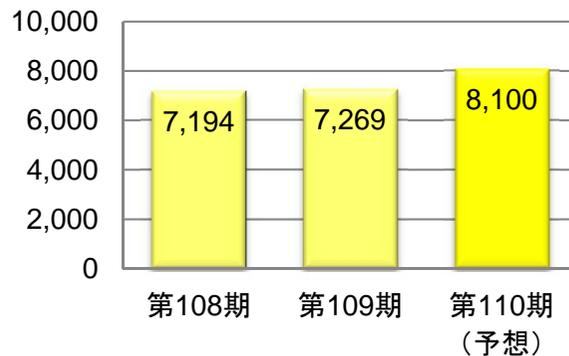
第110期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（産業資材）

産業資材

【第110期業績予想】

- 売上高： 8,100 百万円（当期比 11.4% 増）
- 営業利益：▲490 百万円（当期実績 ▲789百万円）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- テープ用基材については、国内需要が伸び悩むも、過去の減収分の受注回復を目指し、増収を見込む。
- 剥離紙については、メディカル関連に注力し、受注増を見込む他、電材用工程紙については工程見直しにより生産キャパシティを引き上げ、拡販を図る。
- 炭素繊維プリプレグ用工程紙は、今期量産を見込む。
- 増収効果と掛川工場WESTの償却負担の減少により、営業損失は縮小の見込み。

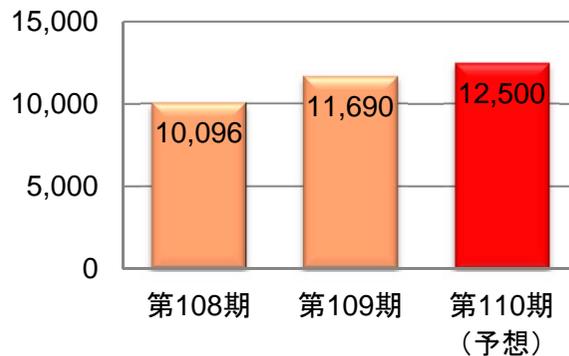
第110期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（機能性材料）

機能性材料

【第110期業績予想】

- 売上高： 12,500 百万円（当期比 6.9% 増）
- 営業利益： 930 百万円（当期比 28.8% 減）

売上高（百万円）



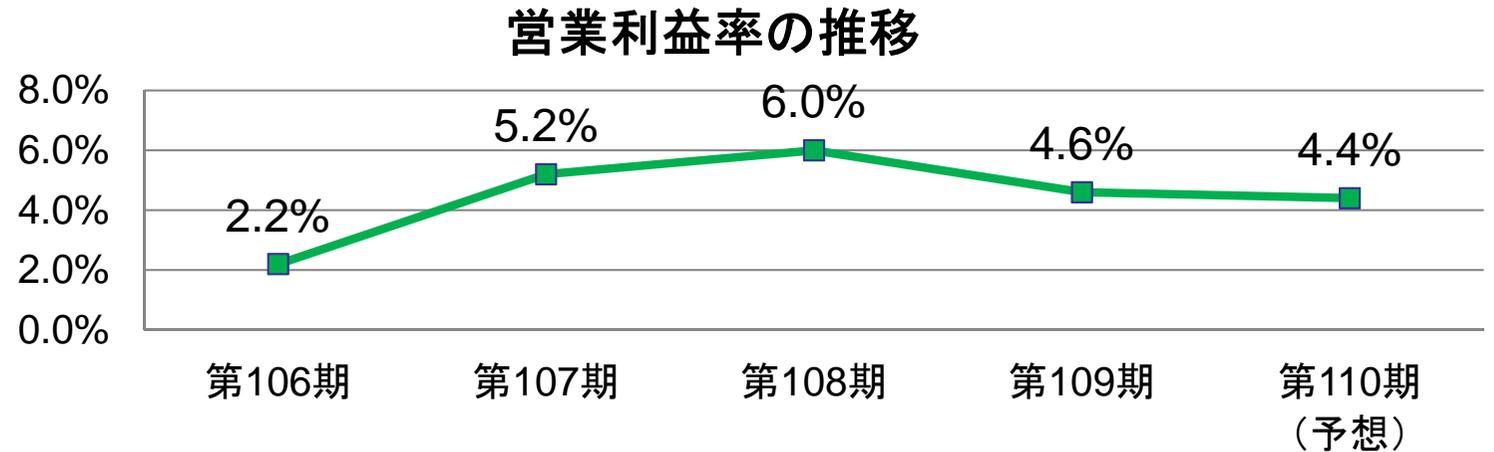
営業利益（百万円）



- 長鼎電子材料の量産開始に伴い、既存ユーザーからの受注増加と新規ユーザーの開拓を進め、液晶テレビ用表面保護フィルムについては、増収を見込む。
- スマートフォン用の表面保護フィルムについては、パネルの仕様に関するトレンドが変化し、従来仕様の注文は減少見込。今後は新規案件と輸出案件の受注に注力。
- 全体として増収を計画するも、原材料コストの上昇と価格転嫁のタイムラグ、ならびに仕入販売取引の増加に伴う利益率低下により、減益を見込む。

第110期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（軽包装材料）

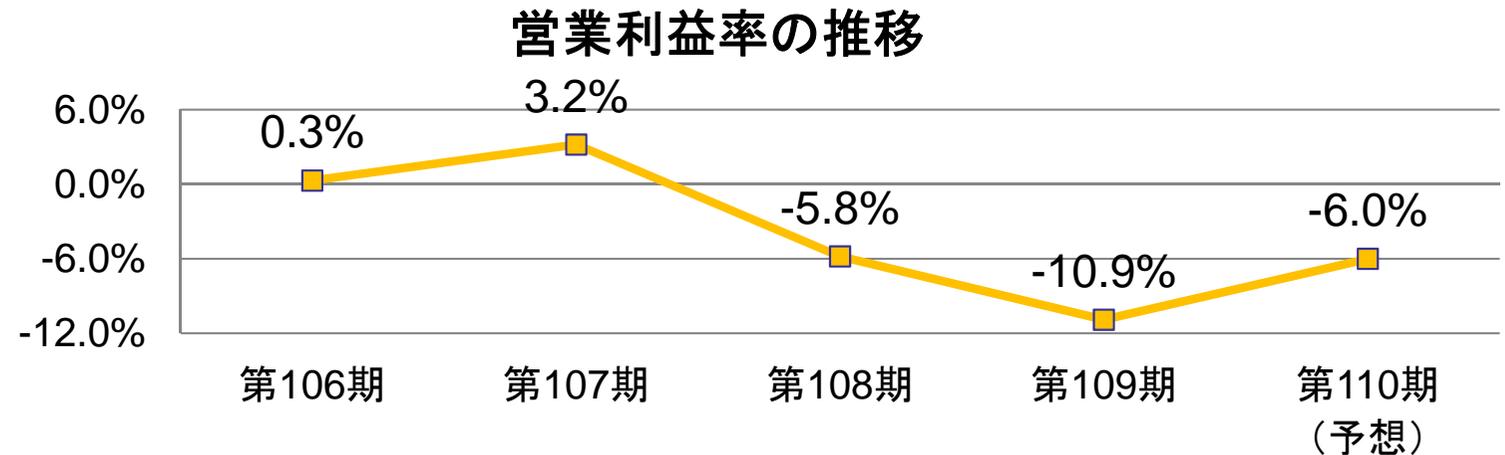
軽包装材料



- 市場ニーズと環境の変化に対応し、安定した収益を上げうる体質づくりを進める
- 市場ニーズに対応した商品開発を継続するとともに、独自商品がもつ機能を基に用途開発を行って新たなニーズを創出し、価格競争を避けつつ収益拡大を図る。
- 将来的に安定した受注増が見込まれる「レンジD。！」については、生産体制を強化し、納期短縮と生産性向上を図る。
- グループ全体の利益が最大となるよう、静岡・奈良両工場と東邦樹脂工業の3拠点で最適な生産体制を構築する。

第110期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（産業資材）

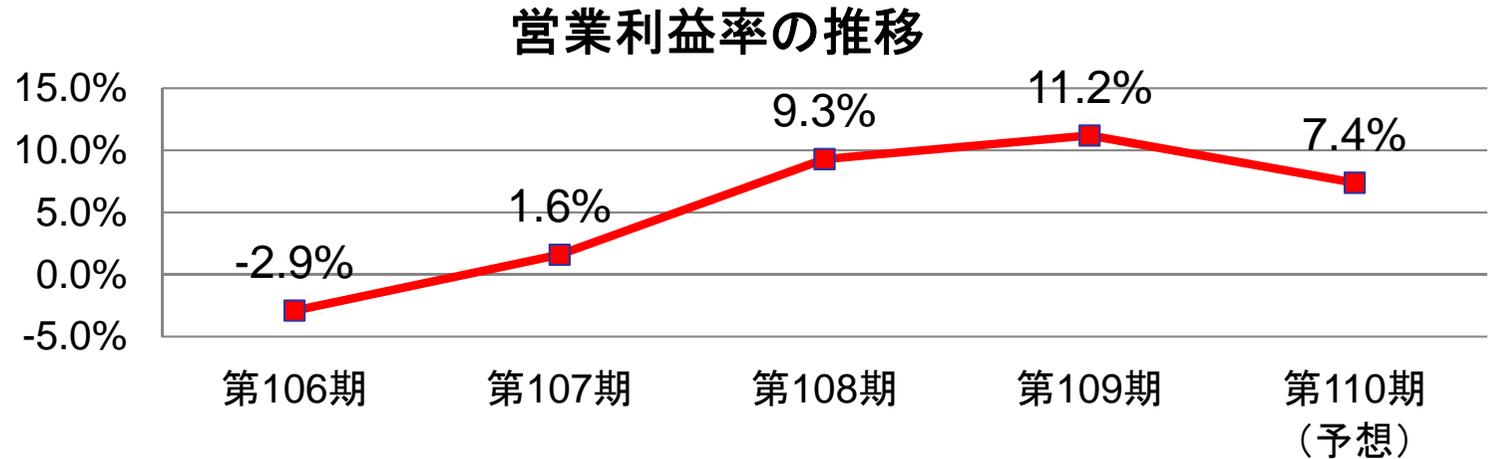
産業資材



- 積極的な受注獲得と生産体制の再構築によって、早急に収支均衡を図る
- 掛川工場WESTを中核とする生産体制を確立し、高品質・低コスト・短納期を追求することにより顧客満足の上昇を図る。
- 電材用工程紙については、価格競争力のある新タイプの開発を推進し、この市場におけるシェア拡大を図る。
- 炭素繊維プリプレグ用工程紙の受注を拡大し、成長市場における足場を固め、収益構造の転換を図る。

第110期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（機能性材料）

機能性材料



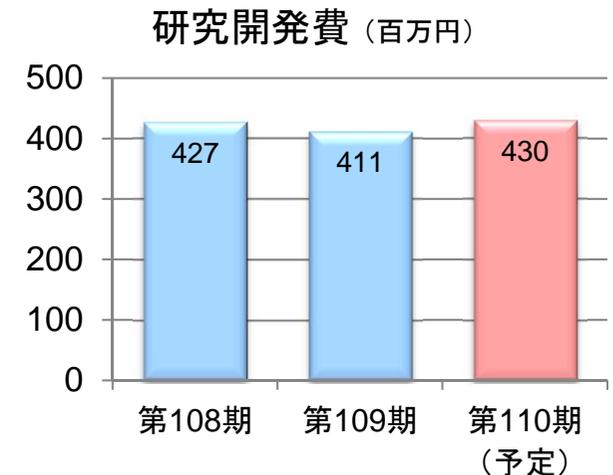
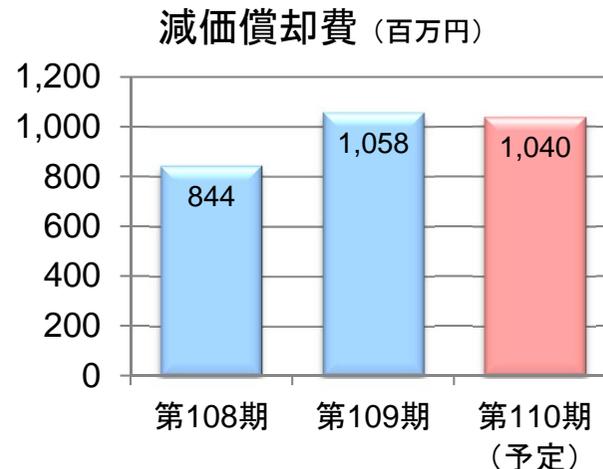
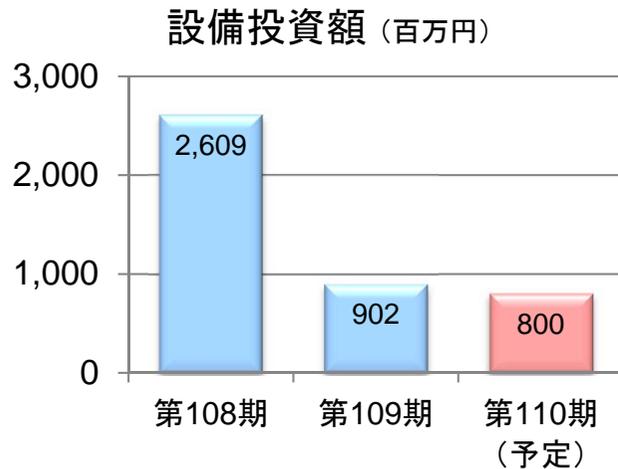
- 技術・品質・顧客対応の強化で高収益を維持し、グループ全体の業績を牽引する
- 顧客密着型の開発態勢をより強化して、光学用途のニッチな分野においても、新製品の開発段階から顧客との協業関係を構築し、将来の受注機会を確保する。
- 長鼎電子材料の量産体制への移行に伴って技術指導を強化し、多様なニーズへの対応力の向上と製造コスト低減を図り、新規ユーザーの開拓を推進する。
- 国内工場で生産される高付加価値製品の輸出を拡大し、グローバル化が進む光学関連市場において、高機能フィルムメーカーとしての地位を確立する。

第110期業績予想と今後の施策：設備投資及び研究開発費

(単位：百万円)

科目	H29年3月期 (第108期)	H30年3月期 (第109期)	H31年3月期 (第110期) (予定)	備考
設備投資額	2,609	902	800	スリッター、フォークリフト、各種試験・検査機器等の更新
減価償却費	844	1,058	1,040	掛川工場WEST関連は減少するも、更新時期と償却期間の関係で減少幅圧縮
研究開発費	427	411	430	既存分野の開発を加速し、新規分野の開発に注力

設備投資額は無形固定資産を含む



目 次

4. 参考情報

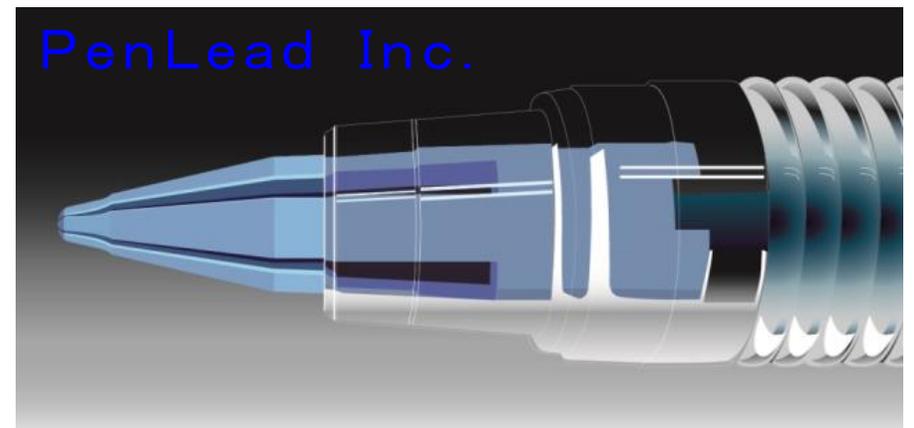
- 関係会社紹介
- 商品紹介
- 基本情報

参考情報：関係会社紹介

■ 株式会社ペンリード

- 当社は、筆記具及び関連部品の製造販売という新規事業に参入するため、2018年1月22日、株式会社ペンリードを設立しました。
- 当初、当社100%子会社として設立しましたが、その後、事業化の要であるペン先に関する特許権者の出資を受け入れるとともに、特許権者から専用実施権を取得し、新たな筆記具作りに挑戦することといたしました。

商号	株式会社ペンリード	
本店所在地	東京都中央区日本橋本町1-7-4	
代表者	代表取締役：山中鎮雄	
事業内容	筆記具及び関連部品の製造販売	
資本金	80百万円	
設立年月日	2018年1月22日	
出資比率	当社	55%
	ペン先に関する特許権者(個人)	45%



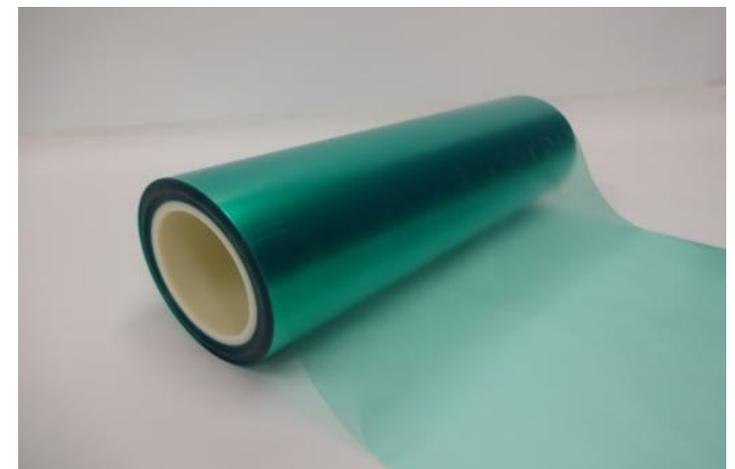
- 上図の形状のペン先に毛細管現象によってインクが伝わり筆記可能となる。
- 万年筆と違い方向性を持たない点の特徴。

参考情報：商品紹介

■ 強粘着PAC

- PAC(2層押し出しタイプの表面保護フィルム)は、低コストで生産できるメリットがある反面、粘着力が弱く、平滑面にしか使用することができなかった。
- 競合他社で強粘着の2層押し出しタイプが開発され、当社サニテクト(粘着塗工タイプの表面保護フィルム)と競合。価格面で対抗できず、受注できないケースも少なくなかった。
- このため、数年前より当社でも強粘着PACを開発。当初は適用範囲が狭く、受け入れられなかったが、その後改良を重ね、塗装鋼板や化粧板など広い範囲で使用可能となった。

	PAC 2層従来タイプ	サニテクト 粘着塗工タイプ	PAC 2層強粘着タイプ
粘着力	微	弱～強	弱～中
コスト	◎	○	○～◎



参考情報: 基本情報

商 号
 証 券 コ ー ド
 設 立 者
 代 表 者
 事 業 所

株式会社 サンエー化研
 4234 (JASDAQ スタANDARD)
 1942年9月 (昭和17年9月)
 代表取締役社長 山本 明広
 本 社 : 東京都中央区日本橋本町1-7-4
 営 業 拠 点 : 東京、大阪、名古屋、静岡
 【海外】台湾、中国上海 (連結子会社 灿櫻(上海)商貿)
 生 産 拠 点 : 静岡、袋井、掛川(2カ所)、奈良
 野木 (連結子会社 東邦樹脂工業(株) 本社工場)
 【海外】中国蘇州 (持分法適用会社 長鼎電子材料)

研究開発拠点: 掛川

資 本 金
 事 業 内 容
 連 結 従 業 員 数
 決 算 期

21億76百万円
 高付加価値プラスチックフィルム・包材の製造・販売
 677名 (平成30年3月31日現在)
 3月31日

業績予想は、本資料の発表日現在(6月5日)において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

お問合せ先

株式会社 **サンエー化研**
経営企画室

Tel:03-3241-5702 Fax:03-3241-5719
E-mail:keiki@sun-a-kaken.co.jp